

特集2

岡谷市民病院 消化器内科 × 消化器外科

副院長 川嶋 彰

消化器外科部長 三輪 史郎

岡谷市民病院 副院長

信州大学医学部卒。平成2年岡谷市民病院に就任。消化器病指導医、内視鏡指導医などの認定を受ける。平成29年度より副院長に就任。

岡谷市民病院 消化器外科部長

信州大学医学部卒。平成22年岡谷市民病院に就任。肝胆膵外科高度技能指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医であり、岡谷市民病院に新たな治療を導入した。

消化器がんから市民を守る 内科と外科の連携体制に迫る。



立がん研究センターによると、平成28年に「がん」で亡くなった人は全国で約37万人にのぼり、そのうち半数は胃がんや大腸がんなどの消化器系の「がん」となっています。一方で内視鏡医療の発展や腹腔鏡手術の普及など「がん」治療も大きく進歩しています。今回は、岡谷市民病院消化器内科の川嶋医師と消化器外科の三輪医師にお話をうかがいました。

―消化器内科と消化器外科、それぞれの役割は。

川嶋 消化器内科は、言ってみれば消化器疾患の入口です。開業医からの紹介を除けば、患者さんがいきなり外科にかかるケースは少ない。内科にかかって診断を受けて、手術が必要となれば外科に紹介という流れになります。

―紹介は、やはりがんの患者さんが多いのでしょうか。

川嶋 そうですね。「がん」の根治術というのは手術になりますので、手術できれば手術してもらったのがベストです。消化器がんが見つければ、ほぼ外科の先生にお願いしています。

三輪 「がん」でも、早期がんであれば内



消化器外科のサポートにより 内視鏡治療の幅が広がりました

視鏡で根治できる場合もありますので、いまは消化器内科の先生が、検査時に直接内視鏡で治療して、根治するというケースも多くなっていますね。

—内視鏡治療も進歩しているのですね。外科手術はいかがですか。

三輪 消化器外科は、腹腔鏡の手術がどんどん取り入れられるようになってきています。当院でも、患者さんにとってなるべく術後の負担が軽い治療をということで、かなり一般化された術式を、より安全に配慮して行っています。今後、適用を少し拡大していくことになると思いますが、手術はリスクと隣り合わせなので、そこにこだわりすぎないようにも常に心がけています。

—互いに連携している点は？

三輪 消化器外科でも胃カメラなどを行っています。専門性が高い検査や治療などは、消化器内科にお願いしています。手術前のがんの進展診断などは、外科の眼ではなかなか難しい。消化器内科には、そういう高度な診断技術があるので、とくにがんに関しては、手術でここまで取るなどといった術式を決定するため、手術前に検査をお願いすることがあります。

あとは、総胆管結石などの治療や、胆道がんといった胆管系の悪性腫瘍、

すい臓がんなどに対する内視鏡的なアプローチといった、外科で行うのが難しい治療ですね。川嶋先生は、そういったいちばん専門性が高いところのプロフェッショナルでいらっしゃるので、ほんとうに助かっています。

ほかにも、術前の準備をするための処置もかなりお願いしています。それがないと手術ができないケースも結構あります。

川嶋 消化器内科は、消化器外科がしっかりバックにいてくれることで、治療の幅が広がっています。内視鏡治療というのは、いま三輪先生がおっしゃったようなことを含め、専門的なことをやろうとすればするほど偶発症の可能性も高くなる。そういうことをちゃんと支えてくれる外科の先生がいないと、消化器の内視鏡治療というのはなにもできない。消化器外科が充実したことで、消化器内科も大きく進歩させてもらったと思っています。

—消化器科をセンター化する構想などがありますか。

川嶋 センター化は、天野院長の将来構想のひとつです。内科と外科がまとまれば、より緊密な連携が取れるようになりますし、若い医師の教育という面でもメリットがあります。また、開業医の先生が紹介先に迷うこともなくなるので、センター化が望ましいと考えています。ただ、現時点では消化器内科医が少なく開設は



術後の負担が軽い腹腔鏡手術を
より安全に配慮して行っています

難しいと思っています。
三輪 確かに、センター化が進めば紹介する側としてもわかりやすいでしょうし、機能的にもまとまりますね。
川嶋 医療が専門的になるなかでセンター化は一般的な流れですし、将来的にはセンター化を進めたいと考えています。

— 今後、どのような医療を提供していきたいですか。

川嶋 消化器内科に関しては、県内の標準以上の診療を行うことを目標にしましたが、いま内視鏡の分野ではほとんど全体のレベルが上がってきているので、それに取残されないよう、平均レベルのことは最低でもキープしていきたいと考えています。

三輪 地域に根ざした、信頼されるような医療を提供していきたいですし、地域に貢献することが最大の目標だと思っています。そのために、自分たちも切磋琢磨していきたいと思っています。

— 最後に、4月に開催される市民公開講座について教えてください。

川嶋 幕内先生という、信州大学で初めて肝移植を行われた先生をお招きして、ご講演いただきます。幕内先生は三輪先生の師匠ですよ。

三輪 肝胆膵外科医として薫陶を受けました。

川嶋 肝炎、とくにウイルス性肝炎を長い間診ていくと、肝臓がんというのは必ず何人かに一人は起きてくる疾患です。当院でも、長く診てきた肝炎の患者さんが肝臓がんを発症して、外科の先生に手術してもらったという例は少なくありません。そういうこともあって、今回、肝臓の世界的権威である幕

内先生に講師をお願いしました。

— どんな先生でいらっしゃいますか。

三輪 わたしにとっては神のような存在です。医学には厳格な超一流の外科医です。

川嶋 歴史に名を残す、スーパードクターですね。

— それは、講演会に行ってみたくありませんか。本日はありがとうございました。

岡谷市民病院 市民公開講座のお知らせ

テーマ 肝切除について (予定)

講師 医療法人社団 大坪会 東和病院
幕内 雅敏 院長

日時 4月14日(土) 午後2時～4時 (1時30分開場)

場所 カノラホール 大ホール

◎参加は無料、事前の申し込みも不要です。直接会場にお越しください。多くのみなさんのご参加をお待ちしています。